

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐伯市立佐伯南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	1	12	26
生徒数	126	118	134	1	379	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身につけ、意欲的に学びあう生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

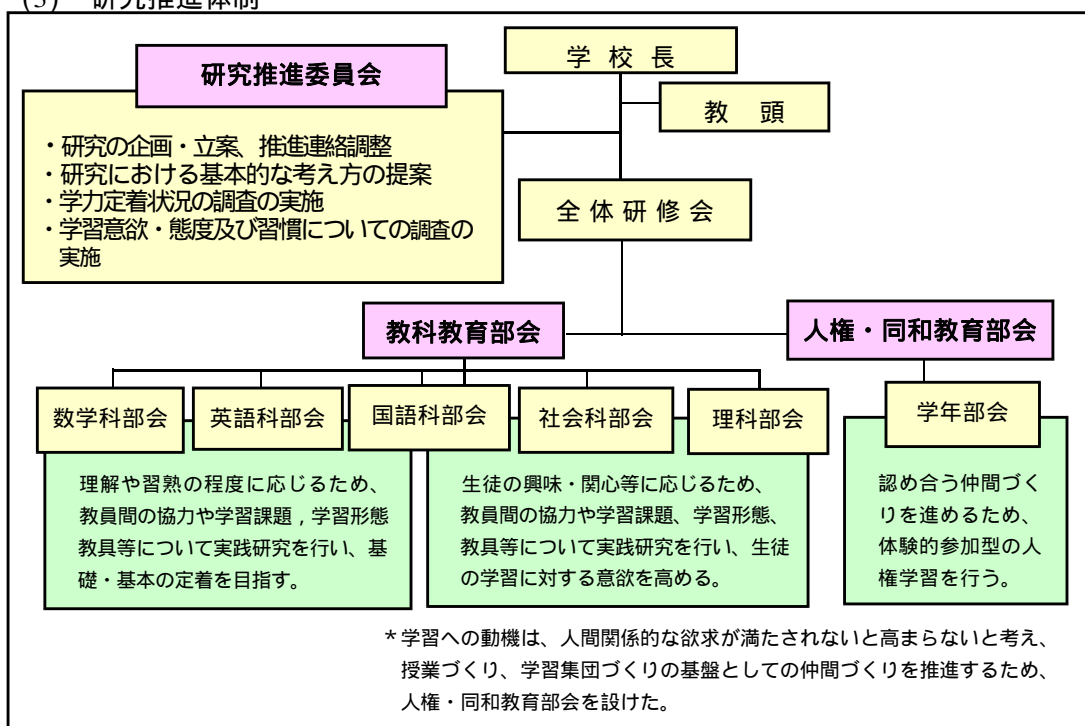
1 学年～国語、数学、理科 2 学年～社会、数学、理科、英語 3 学年～社会、理科、英語 ・ 生徒の理解や習熟の程度に差がつきやすい教科を中心に

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 確かな学力を身につけ、意欲的に学びあう生徒の育成 研究の見通し(仮説) 教科指導において、個の実態を把握し、それに応じた学習課題や形態、学習の場を工夫改善するとともに、指導体制の充実を図れば、確かな学力の定着や意欲的な学び合いが実現できるであろう。 内容・方法 ・ 確かな学力や学習意欲、個に応じた指導について学習する。 ・ 各教科において、次の事柄に迫るため授業研究等を行う。 ア 生徒の興味・関心や理解・習熟の程度を把握する方法 イ 個の実態に応じた学習課題のあり方 ウ 個の実態に応じた学習形態(個別、小集団等)のあり方 エ 支援にふさわしい指導体制のあり方 ・ 学習に対する意識や家庭学習の実態を調査する。 ・ 数学と英語について、標準学力検査(CRT)を行う。 ・ 次年度の教育課程について検討する。 ・ 学級における望ましい人間関係を育成し学習環境を整えるため、学級内人間関係調査(Q・U)を実施するとともに、参加体験型の授業実践を行う。
--------	---

平成16年度	テーマ 確かな学力を身につけ、意欲的に学びあう生徒の育成 研究の見通し 15年度、各教科によって行われた取り組みを一層充実させることより、生徒の学力の向上や意欲を高めることができる。 内容・方法 ・ 理解や習熟の程度に応じた少人数指導の実施 ・ ティーム・ティーチング(以下TT)の実施 ・ 選択教科における指導の工夫改善 ・ 学習に対する意識や家庭学習の実態の調査 ・ 数学と英語について、標準学力検査(CRT)の実施 ・ 次年度の教育課程についての検討 ・ 学級における望ましい人間関係を育成し、学習環境を整える。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 少人数指導の実施

内容

- ・ 2 学年、数学と英語において少人数指導

成果

- ・ 少人数であるため、発言しやすい雰囲気を作ることができた。個々の発表の機会も増え、意欲的な授業参加が実現できた。
- ・ 生徒の疑問にたいねいに応じることができ、生徒のつまずきの把握や回復に効果があった。

(2) T Tの実施

内容

- ・ 国語（1 学年の書写） 社会（2 学年、3 学年） 数学（1 学年） 理科（全学年） 英語（3 学年）

成果

- ・ 生徒の疑問にたいねいに応じることができ、生徒のつまずきの把握や回復に効果があった。
- ・ 複数の教師が協働して授業を展開するため、教材研究などがこれまで以上に十分行われるようになった。また、指導の目標も明確に意識した。
- ・ 複数の教師で評価を行うため、生徒のよさを認めることができ、補充や発展の学習を促すことができた。

2. 今後の課題

新3学年の数学科と英語科において、理解や習熟の程度に応じた少人数指導等を引き続き行う。また、一層効果的な指導とするため、指導体制・指導方法を検討する。個の実態に応ずるというT Tの目的を明確に意識し、学習課題や学習形態（一斉・個別、グループ）の工夫改善を進める。生徒の個性を伸ばし、学習に対する意欲や関心、態度の向上を図るため、選択教科の指導内容・方法の工夫改善を進める。生徒の学習状況を適切に評価し、その評価の結果によって指導を改善する取り組みを進める。

学力把握のための学校としての取組

定期考査

・指導事項の理解や習得の状況の把握のため、各学期2回行う。

標準学力検査

・標準化された学力検査によって、基礎的・基本的な内容の定着の状況を把握するため、学年末に行う。(本年度は、英語および数学で実施)

意識・実態調査

・生徒の学習観や学習実態を把握し、学習に対する意欲や態度の育成のあり方を改善するとともに、指導の成果を評価するため、学年末に行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業研究会(数学)

日時 平成16年2月20日

対象 校区内小学校教職員・本校教職員

公開研究発表会(予定)

日時 平成16年11月

対象 管内小中学校教職員・本校教職員

冊子「研究のまとめ」を作成、管内中学校に配布する。

管内数学部会にて、研究実践の報告をする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 ■15年度からの新規校 □14年度からの継続校

【学校規模】

□3学級以下

□4～6学級

□7～9学級

■10～12学級

□13～15学級

□16学級以上

【指導体制】

■少人数指導

■T・Tによる指導

□その他

【研究教科】

■国語

■社会

■数学

■理科

■外国語

□音楽

□美術

□技術・家庭

□保健体育

□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

■有

□無